



低炭素社会の実現に向けて

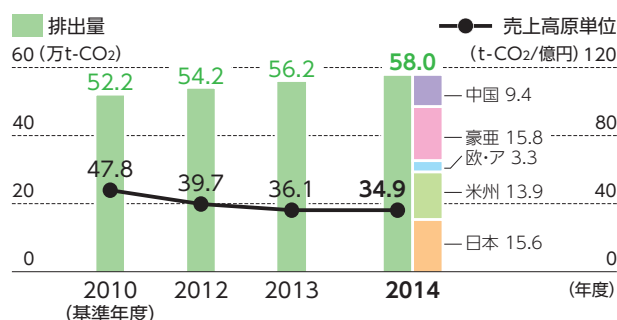
CO₂排出量の削減目標の達成に向けて、製造工程や輸送工程などにおいてさまざまな取り組みを実施しています。

事業所におけるCO₂排出量削減

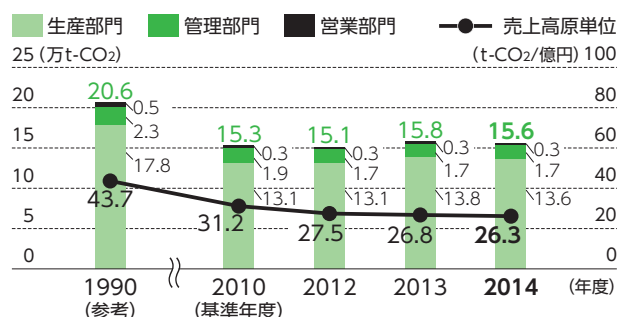
矢崎グループは、「グローバルで2020年度までに原単位でのCO₂排出量を2010年度比で20%削減する」という目標を掲げ、確実な対応に努めています。2014年度は、照明のLED化や空調生産設備の省エネルギー化、待機電力の低減などを行い、グローバルでCO₂排出量を約6,340トン削減しました。その結果、2014年度の売上高原単位は34.9トン・CO₂/億円、2010年度比27.0%減となりました。国内矢崎グループとしては、2014年度の売上高原単位は26.3トン・CO₂/億円、2010年度比15.7%減となりました。

また、太陽熱利用機器や木質ペレット焚吸収冷温水機『バイオアロエース』など、CO₂削減貢献製品の販売にも力を入れています。2014年度に販売を開始した太陽熱を利用した給湯システム『エコソーラータイプⅡ』は、従来品から太陽熱の集熱効率を3%向上させ、1台あたり年間で539kgのCO₂削減効果があります。これらの製品による2014年度のCO₂削減貢献量は5.4万トンとなり、2011年度からのCO₂削減貢献量は、累計で19.1万トンとなりました。

CO₂排出量の推移(グローバル)



CO₂排出量の推移(国内)



グリーン物流活動の推進

国内矢崎グループでは、物流によるCO₂排出量の削減をめざし、輸送の効率化やモーダルシフトをはじめ、急発進・急加速・急減速の禁止などのエコドライブによるグリーン物流活動を推進しています。省エネルギー法の特定荷主に指定されている矢崎部品(株)と矢崎エナジーシステム(株)では、国の指針に基づき「輸送におけるエネルギー消費量原単位の前年度比1%削減」を目標に掲げ、輸送効率の改善に取り組んでいます。

2014年度の物流にともなうCO₂排出量は前年度比0.8%増加の2.0万トンとなりました。また、輸送量(トンキロ)あたりのCO₂排出量は前年度比2%増加の142.6g-CO₂/トンキロとなりました。これらの主な増加要因は、遠隔地への小口輸送の増加や、悪天候にともなう海上輸送からトラック輸送への振り替えなどが挙げられます。今後は、製造・販売・開発部門とも連携しながら、省エネルギー、CO₂削減に取り組んでいきます。

TOPICS

混載による輸送効率の改善

矢崎部品(株)では、これまで福岡県北九州市の物流拠点から静岡県磐田市の物流拠点まで、ワイヤーハーネスを毎日輸送し、J/B(ジャンクションブロック)などの部材を別便で月に4回程度輸送していました。2014年度は、ワイヤーハーネスを輸送していた定期便にJ/Bなどの部材を混載し、月4回程度発生していた別便をなくすることで輸送の効率化を図りました。これにより、1ヵ月あたり1.13トンのCO₂を削減することができました。

